

## 江東区協働事業提案制度採択事業 平成 24 年度実施事業報告

### 公園を通した地域コミュニティ形成活動事業

#### ～区民がつながり守り育てる公園づくり～

南砂線路公園の環境を守る会

南砂線路公園の環境を守る会は、JR貨物越中島線の旧小名木川駅引き込み線跡地が江東区に譲渡され、区が「南砂線路公園」として整備し、その維持管理活動の要請があったことをきっかけに、コープ南砂自治会の呼びかけで「住民参加による公園管理活動」のために 2010 年 4 月に設立された南砂 1 丁目地域の住民団体です。

会は、コープ南砂の居住者を中心に町内の住民、事業者を含め 50 人ほどの会員で構成され、自治会・町会活動の一環として、毎月 1 回、南砂線路公園と仙台堀川公園（科学の森）の清掃や除草、植栽の維持管理活動などに取り組んでいます。今年度は、江東区協働事業提案制度による協働事業に採択され、「公園を通した地域コミュニティ形成活動事業～区民がつながり守り育てる公園づくり～」に取り組んできました。



以下、平成 24 年度（2012 年度）に会が取り組んだ協働事業の目的と内容、実施経過、事業の成果と課題について報告します。

#### 1. 協働事業の目的と内容、実施経過

##### （1）協働事業の目的

緑豊かな公園づくりは今、まちづくりの重要な施策であるとともに、地球環境の保全という意味からも行政上の重要な課題です。とくに都市部において公園は、住民の貴重なオープンスペースであり、公園の維持管理に住民が参加することで地域のニーズにあった親しみある公園づくりが進み、地域の共有施設である公園本来の用途にかなうこととなります。また、緑豊かな公園づくりは、地域の住民にとって住環境の保全や防犯防災対策上も歓迎すべきことです。そして、協働・住民参加による公園管理活動に参加することで、参加者は公園がより身近な親しみあるものとなり、環境保全、地域貢献のボランティア活動に参加する楽しみが生まれます。

私たちが取り組んだ江東区との協働事業「公園を通した地域コミュニティ形成活動事業～区民がつながり守り育てる公園づくり～」は次のような目的で実施されました。

- ① 協働・住民参加による公園管理活動の普及、モデルケースづくり
- ② 地域住民と行政が連携した適切な公園管理の推進
- ③ 地域のニーズにあった、住民に親しみのある公園づくり
- ④ 公園での活動を通した地域住民のつながり、コミュニティ活動の活性化

⑤ 区の公園管理事業経費（税金）の節約

（２）事業の内容、実施経過

協働事業は、①南砂線路公園、仙台堀川公園（科学の森）の定例維持管理活動、②明日の公園を話し合うワークショップ（年４回）、③四季折々の自然の変化を体感、学習する春・夏・秋のイベント、④ニュース、チラシなどの発行による区民への広報活動の４つの事業を中心に、次のような内容で取り組みました。

＜１＞ 公園維持管理の定例活動（毎月１回／南砂線路公園・仙台堀川公園科学の森）

下記内容で、毎月１回の近隣公園の維持管理活動に取り組みました。

＜活動内容＞ 公園内の除草と清掃、樹木の剪定、草花の手入れ、散水活動など

＜活動時間＞ 第４土曜日の朝９時～１０時（冬場は１０時～１１時）の約１時間

＜参加者＞ 毎回２５人前後（子ども含む）

定例活動の参加者は年間で合計３１３人、回収した雑草・ごみは１９７袋に達し、公園はきれいに維持管理されています。



また、定例活動のほかに、会の世話人による公園内の落書きやシールの除去、散水活動、設備補修などの特別作業を随時行いました。

（資料）2012年4月～2013年3月の活動実績

活動日		参加者（人）			回収ごみ （45ℓ袋）	活動内容
月 日	活動時間	大人	子供	合計		
4月28日（土）	09:00～10:00	31	2	33	19袋	除草、清掃
5月26日（土）	09:00～10:15	21	4	25	23袋	除草、清掃
6月23日（土）	09:00～10:15	28	0	28	25袋	除草、剪定、清掃
7月28日（土）	09:00～10:15	28	3	31	24袋	除草、剪定、清掃
8月25日（土）	09:00～10:00	23	1	24	20袋	除草、剪定、散水
9月29日（土）	09:00～10:15	28	4	32	28袋	除草、剪定、清掃
10月27日（土）	09:00～10:20	23	0	23	19袋	除草、剪定、散水
11月24日（土）	09:00～10:00	26	3	29	8袋	除草、剪定、清掃
12月23日（日）	10:00～11:00	18	0	18	9袋	除草、清掃
1月26日（土）	10:00～11:00	22	2	24	10袋	除草、剪定、清掃
2月23日（土）	10:00～11:00	22	0	22	4袋	清掃、設備補修
3月23日（土）	10:00～11:00	23	1	24	8袋	除草、剪定、清掃
合 計		293	20	313	197袋	

※定例活動では毎回、協賛企業の㈱ポッカ提供のカートカン緑茶を参加者に支給しました。

## <2> 公園の明日を話し合おう！ワークショップの開催(年4回)

公園の明日を話し合うワークショップは下記の内容で4回開催し、応募区民と主催団体、協力団体、協賛企業、区職員など合計126人が参加し、熱心な話し合いが行われました。



### (第1回) テーマ：住民参加による公園の維持管理活動を広めよう！

◆開催日：2012年5月12日(土)午後1時半～4時

◆会場：江東区文化センター6階会議室

◆内容：報告① 住民参加による公園管理の課題(南砂線路公園の環境を守る会 小林孝)  
報告② 江東区の公園管理の現状と課題(江東区水辺と緑の課 諏訪正晃、清水英明)  
報告③ 江東区版アダプトの現状と課題(江東区環境保全課 米倉信之)  
ワークショップ 協働・住民参加の公園活動の意義と課題について話し合いました。

◆参加者：30人(応募区民、主催団体、協力団体、協賛企業、区職員)

### (第2回) テーマ：公園、道路の維持管理活動のノウハウを学ぼう！

◆開催日：2012年7月28日(土)午後1時半～4時 ◆会場：江東区役所7階会議室

◆内容：報告① 南砂線路公園の維持管理活動(南砂線路公園の環境を守る会 箱守春樹)  
報告② ビオトープの保安全管理活動(NPO法人ネイチャーリーダー江東 阿河真人)  
報告③ わがまち江東きれいに活動(区職員ボランティアグループ 諏訪正晃)  
レポート報告① わがまち江東きれいに活動(東陽2丁目町会)  
レポート報告① わがまち江東きれいに活動(日立製作所)

ワークショップ 上記の事例報告を受けて、公園、道路の維持管理活動の方法、課題について話し合いました。

◆参加者：26人(応募区民、主催団体、協力団体、協賛企業、区職員)

### (第3回) テーマ：公園の楽しい使い方を話し合おう！

◆開催日：2012年10月27日(土)午後1時半～4時 ◆会場：江東区役所7階会議室

◆内容：発題「公園でできる、こんなこと、あんなこと！」(佐藤 留美 NPO birth 事務局長)  
報告① 江東区の公園施設の紹介(水辺と緑の課 内山 将宏)  
報告② 木場プレーパークぼうけん隊の活動紹介(河野 由美、川口 千恵子)  
報告③ 和船友の会の活動紹介(根本 明洋)  
報告④ 練馬みどりの機構の活動紹介(荻野 淳司)

ワークショップ 上記の発題、活動紹介を受けて、公園の楽しい使い方について話し合いました。

◆参加者33人(応募区民、主催団体、協力団体、協賛企業、区職員)

(第4回) テーマ：どう進める？ 協働による講演活動

◆開催日：2013年3月23日(土) 午後1時半～4時半 ◆会場：江東区役所7階会議室

◆内容：講演 「みんなで考え、みんなで作くり、みんなが楽しめる公園づくり！」

講師：佐藤 留美 (NPO 法人 birth 事務局長)

報告 「区民協働の公園管理活動実施要綱(草案)について

報告：小林 孝 (南砂線路公園の環境を守る会)

パネルディスカッション <協働に、どう取り組むか>

(パネラー) ①山田 英典 (水辺と緑の課) ②阿河 真人 (NPO ネイチャーリーダー 江東) ③佐藤 恒久 (ポッカサッポロフード&ビバレッジ) ④中瀬 勝義 (江東エコリーダーの会)

ワークショップ 上記の講演、報告を受けて、協働による講演活動をどう進めるかをテーマに話し合いました。

◆参加者37人(応募区民、主催団体、協力団体、協賛企業、区職員)

(資料) 公園の明日を話し合おう！第1回ワークショップのまとめ(要旨)

作成：佐藤 留美 (WSファシリテーター/NPO 法人 birth 事務局長)

<住民参加のよいところ> 公園の再生、地域の再生につながる！

公園への愛着、親近感	<ul style="list-style-type: none"><li>・公園に愛情、愛着が湧き、公園が好きになる。</li><li>・公園が身近になり、親しみや親近感が増す。</li><li>・みどりの公園活動に参加すると心が癒される。</li><li>・地域貢献活動に参加する喜び、やりがい生まれる。</li><li>・自分が参加すると気になり、きれいに利用するようになる。</li><li>・公園がきれいになり、地域のイメージが良くなる。</li><li>・公園の利用者が増え、マナーの向上にもつながる。</li><li>・公園は地域の共有施設という意識が高まる。</li></ul>
地域コミュニティの育成	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民の出会い、つながりが広がる。</li><li>・子どもからお年寄りまで世代を超えた人と交流できる。</li><li>・地域住民の活動拠点になり、地域の連帯意識が高まる。</li><li>・井戸端会議、情報発信の場となり、地域の交流が深まる。</li><li>・子ども達やお年寄りの“居場所”づくりになる。</li><li>・地域の知り合いや友だちが増える。</li><li>・地元の企業の人とも知り合いになれる。</li><li>・公園管理以外の活動にも発展していく。</li></ul>
安全・安心な公園管理	<ul style="list-style-type: none"><li>・防犯効果に役立つ。</li><li>・地域の目が届くので公園利用マナーの向上に役立つ。</li><li>・公園美化の意識が高まり、ごみが減る。</li><li>・公園の危険箇所や設備の不具合などに対応できる。</li></ul>

住民主体の公園づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民のニーズにあった公園ができる。</li> <li>・ 住民の主体性が生まれ、発揮される。</li> <li>・ 住民の特技、専門性が活かされる。</li> <li>・ 地元ならではの公園の使い方や管理ができる。</li> <li>・ 地域の特性、特色がでる。</li> <li>・ 住民の柔軟な発想による楽しい企画が生まれる。</li> <li>・ 行政や業者には出来ない住民本意の気配りが可能になる。</li> <li>・ 設計のマンネリがなくなる。</li> </ul>
------------	--

人の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人が育つ場所になる。</li> <li>・ 樹木や草花の名前を覚え、関心を持つようになる。</li> <li>・ 植栽や花壇づくりの知識や専門性を学ぶことができる。</li> <li>・ 共同作業の楽しさ、ルールが身につく。</li> </ul>
------	--

行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政と地元のつながりが深まる。</li> <li>・ 地元住民と行政の密な連携で適切な公園管理ができる。</li> <li>・ 住民の意見が反映され、行政への苦情が減る。</li> <li>・ 住民同士が話し合う場ができ、行政への要望がまとまる。</li> <li>・ 住民の意見を聞く場となる。</li> <li>・ 行政による管理業務、事業委託が減る。</li> <li>・ 事業経費が節約でき、節税につながる。</li> </ul>
--------	--

＜住民参加の課題と解決策＞ 継続性・意見の調整

継続性（体制）	<p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続性を確保できるか</li> <li>・ 責任の所在は？</li> <li>・ 予算はどう確保するか。</li> <li>・ 私物化にならないか</li> <li>・ 地域の理解をどう得るか</li> <li>・ ケガ、事故などが心配</li> <li>・ 管理が難しくならないか</li> </ul>	<p>＜解決策案＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協定書の締結、しっかりしたルールづくり</li> <li>・ 役割分担の明確化</li> <li>・ 安全、安心に活動できる体制づくり</li> <li>・ 企業に参加、協賛の呼びかけ</li> </ul>
---------	---	--

継続性（参加者）	<p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の継続した参加</li> <li>・ 参加者を増やす方法は？</li> <li>・ 参加者の世代交代</li> <li>・ 若い世代の参加</li> <li>・ 広報をどうするか</li> <li>・ 適度な活動頻度の検討</li> </ul>	<p>＜解決策案＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンテンツの充実</li> <li>・ 参加者の特技や主体性尊重</li> <li>・ 柔軟性を持った活動</li> <li>・ 楽しいイベントの開催</li> <li>・ コミュニケーションが大切</li> <li>・ 広報、声かけ</li> <li>・ 無理のない活動</li> </ul>
----------	--	--

<p>意見の調整</p>	<p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の異なる意見の調整</li> <li>他者を排除する危険性</li> <li>閉鎖的になるリスク</li> <li>多様な住民ニーズへの対応</li> <li>行政との協議、意見調整</li> <li>行政との信頼関係</li> </ul>	<p>＜解決策案＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の理念、価値観の共有</li> <li>活動の公共性を踏まえ相互の立場を尊重する</li> <li>対話とコミュニケーション</li> <li>まずは共に活動し、経験、成果を共有する</li> </ul>
--------------	--	---

### ＜3＞ 春・夏・秋のイベント開催

四季折々の自然の変化を体感、学習する子どもたちも参加できるイベントとして、5月にみどりのカーテン教室を、8月に夏休み子ども自然観察会（セミの羽化観察会）を、11月に秋の落ち葉感謝祭を下記内容で開催しました。

#### （春のイベント） みどりのカーテン教室

◆ 開催日：2012年5月26日（土）午後1時から3時半 ◆ 会場：江東区役所7階会議室

◆ 内 容：第1部 みどりのカーテン教室

講演「地球環境とみどりのカーテン～みどりのカーテンで元気になろう！～」

講師：岩崎 寛（千葉大学大学院園芸学研究科）

報告① みどりの育成と温暖化対策（江東区温暖化対策課 政木 隆史）

報告② みどりのカーテンの育て方（江東エコリーダーの会 山田 政雄）

第2部 みどりのカーテン体験学習

実技指導：山田 政雄（江東エコリーダーの会） 会場：区庁舎2階ピロティ

◆ 参加者45人（応募区民、主催団体、協力団体、協賛企業、区職員）



#### （夏のイベント） 夏休み子ども自然観察会（セミの羽化観察会）

◆ 開催日：2012年8月4日（土）午後6時～8時半 ◆ 会場：コープ南砂集会室・敷地内公園

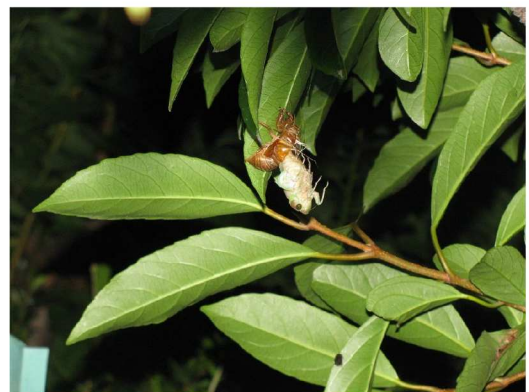
◆ 内 容：第1部 お話し「セミの羽化について」

講師：阿河 真人（NPO ネイチャーリーダー江東）  
ネイチャーリーダー江東スタッフによる紙芝居とセミの標本展示

第2部 セミの羽化観察会（コープ南砂敷地内公園）

案内役：阿河 真人＋スタッフ

公園に出て、懐中電灯で照らしながら感動的なセミの羽化を親子で観察しました。



◆ 参加者56人（応募区民、主催団体、協力団体、協賛企業、区職員）

(秋のイベント) 落ち葉感謝祭

◆ 開催日：2012年11月24日(土) 午前・午後 ◆ 会場：都立木場公園など区内4会場

第1部：体験教室「落ち葉と微生物の役割を知ろう！」(3分科会)

<第1分科会> 生ごみリサイクルで公園の土を豊かに！

内容：家庭の生ごみや公園の落ち葉を堆肥にして活用する活動の体験教室

会場：コープ南砂敷地内公園

講師：小林 孝(コープ南砂生ごみリサイクルの会)

協力：コープ南砂生ごみリサイクルの会

参加者31人(応募区民、主催団体、協力団体、区職員)

<第2分科会> 公園でネイチャーゲームを楽しもう！

内容：公園の落ち葉などを使ってネイチャーゲームを親子で楽しむ体験教室

会場：都立木場公園(南の冒険広場)

講師：高橋 芳栄(こうとうネイチャーゲームの会)

協力：こうとうネイチャーゲームの会

参加者45人(応募区民、主催団体、協力団体、区職員)

<第3分科会> 土の中の生き物たちを観察しよう！

内容：採取した土壌を顕微鏡などを使い、土の中の  
生き物を観察する体験教室

会場：江東区教育センター第1研修室

講師：阿河 真人(ネイチャーリーダー江東)

協力：ネイチャーリーダー江東

参加者34人(応募区民、主催・協力団体、区職員)



第2部 学習教室「土の中の生き物たちと公園づくり」

会場：江東区教育センター大研修室

分科会報告(生ごみリサイクル) / ネイチャーゲーム / 生き物観察会)

講演「土の中の生き物たちと公園づくり」

講師：青木 淳一(横浜国立大学名誉教授)

報告① 江東区生ごみ減量モニター事業の紹介  
(清掃リサイクル課 加川 彰)

報告② 公園のみどりのリサイクル活動の紹介  
(水辺と緑の課 諏訪 正晃)

参加者61人(応募区民、団体関係者、区職員)

会場に顕微鏡等をセットし、参加者に土の中の  
生き物を観察してもらいました。



◆ 参加者：第1部・第2部の合計200人(応募区民、主催・協力団体、協賛企業、区職員)

#### <4> ニュース、案内チラシ、ポスターの発行、広報活動

区民への広報のために、次のような活動を行いました。

- (1) 南砂線路公園の環境を守る会ニュースを6回発行し、会員及び協力団体、協賛企業、協働事業参加者に配布しました。
- (2) ワークショップや春・夏・秋のイベントの案内チラシとポスターを作成し会員及び協力団体、協賛企業、協働事業参加者に配布しました。
- (3) 江東区コミュニティ活動支援サイト「ことこみゅネット」にニュースとイベント案内を投稿し、掲載しました。
- (4) 本事業は江東CATVが4回取材に入り、区政情報番組の江東スクエアで放送されました。
- (5) 本事業の「報告集」(本誌)を発行し、会員及び協力団体、協賛企業、区事業関係課、協働事業参加者に配付しました。

#### (3) 協働事業の実施体制

本事業は次のような実施体制で取り組みました。

- (1) 企画運営委員会(2ヶ月に1回/年6回開催)

本事業の企画、実施のために、主催団体と事業担当課、協力団体、協賛企業の関係者16人で構成される企画運営委員会を設置し、隔月に委員会を開催しました。

企画運営委員会は次のメンバーで構成しました。

- ① 佐藤貞敏、② 小島義昭、③ 小林 孝、④ 小森靖幸、⑤ 沢里正雄、⑥ 箱守春樹(以上、主催団体)
- ⑦ 石毛教子、⑧ 伊藤ゆり子(以上、Green Up) ⑨ 中瀬勝義、⑩ 山田政雄(以上、江東エコリーダーの会)
- ⑪ 佐藤恒久(ポッカサッポロフード&ビバレッジ) ⑫ 松田真視子(古石場ムービー倶楽部)
- ⑬ 佐藤留美(NPO birth) ⑭ 山田英典、⑮ 清田秀雄→別府克俊、⑯ 内山将宏(以上、事業担当課)

企画運営委員会は下記日程で開催しました。

- <第1回> 4月26日(木)   <第2回> 6月28日(木)   <第3回> 8月2日(木)  
<第4回> 10月18日(木)   <第5回> 12月20日(木)   <第6回> 2月21日(木)

- (2) 実施団体：南砂線路公園の環境を守る会

- (3) 事業担当課：江東区土木部水辺と緑の課

事業関係課：江東区環境清掃部環境保全課、清掃リサイクル課、温暖化対策課

- (4) 協力団体：本事業は下記の12市民団体と町会2団体の協力を得て実施しました。

Green Up/江東エコリーダーの会/NPO ネイチャーリーダー江東/こうとうネイチャーゲームの会/和船友の会/木場プレーパークぼうけん隊/みどりネットKOTO/NPOサイクルリング/こうとうハーブ会/こうとうビオトープネットワーク/NPOみどり環境ネットワーク/練馬みどりの機構/東陽2丁目町会/南砂1・2丁目町会

- (5) 協賛企業：本事業は下記の区内事業者13社に、協賛企業として広報活動や協賛金、資材提供にご協力いただきました。



ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)／(株)竹中工務店／日本ヒューレット・パカード(株)／東京ガスライフバル東江東／三菱電機ビルテクノサービス(株)／日本ハウズイング(株)／(株)NTT東日本-東京／共同ネットワーク(株)／(株)日経統合システム／(株)日立製作所／JR貨物(株)／ヤマト運輸(株)／佐川急便(株)

- (6) 活動の記録：本事業の記録のために、それぞれの活動毎に参加者名簿を作成しました。また、活動を映像に残すためにビデオを撮り、DVDに編集しました。
- (7) 保険の加入：本事業の実施にあたり、参加者が活動中に事故でケガをした場合の傷害保険と、主催者が活動参加者など他人の財物に損害を与え法律上の賠償責任を負った場合の賠償責任保険に加入しました。

#### (4) 本事業の収支決算の概要

本事業の収支決算の概要は以下の通りです。

- ・収入は総額 1,520,065 円で、内訳は江東区負担金 1,380,000 円、実施団体負担金 20,000 円、協賛金 120,000 円、預金利息 65 円でした。
- ・支出は総額 1,491,675 円で、内訳は講演料、講師謝礼などの人件費が 502,000 円、ポスター、チラシ、報告集などの印刷費が 683,617 円、会場費等が 56,064 円、事務通信費が 168,618 円、交通費 5,240 円でした。
- ・収支決算書は別頁（12 頁）に掲載しました。

## 2. 事業取り組みの成果

本事業の取り組みによる成果として、次のようなことが確認できます。

### (1) 地域住民・行政の密な連携による公園管理が実現

協働によって、地域住民と事業担当課、関係課の連携がより密になり、より適切な公園の管理、安心・安全で、きれいな公園の維持管理が実現しています。

(例) 公園内の樹木の立ち枯れ、看板への落書き、設備の不具合などに関する密な連絡、速やかな対応、震災復旧工事などの危険箇所、自転車事故対策などの連絡、対応協議などができています。また、協働・住民参加の公園管理活動によって、ごみの投げ捨てや犬の糞などマナーの悪い人に対する抑止効果も実感しています。



### (2) 会員の特性、専門性を活かした公園管理を推進

会員の特性や専門性を生かした適切で、適宜な公園内の除草作業が行われています。

(例) 公園の維持管理で最も手がかかるのは除草作業です。花壇や植え込みでは刈り払い機による除草は適切ではないため、当会では除草鎌を使った手作業で実施しています。これは、当会会員

が長年の構内除草作業で培ってきた経験、専門性を活かしたものです。

### **(3) 区内の市民団体とのネットワーク、協力関係の形成**

本事業は、区内で公園やコミュニティ・ガーデンの維持管理活動、環境保全活動に取り組んでいる市民団体、公園施設を使って子育て支援やコミュニティ活動に取り組んでいる団体の協力を得て実施され、市民団体のネットワーク、協力関係が広まっています。

(例) ワークショップでは和船友の会、木場プレーパークぼうけん隊など7団体の事例報告を、春・夏・秋のイベントでは江東エコリーダーの会、ネイチャーリーダー江東、こうとうネイチャーゲームの会などの協力を得て実施されています。

### **(4) 協働による地域住民の理解、協力の広まり**

区との協働事業であることで、地域住民の理解が深まり、新しく参加する人が増えて、地域住民との出会い、交流、つながりが広がっています。

(例) 活動案内のチラシやポスターなどに「協働事業」が明記され、区のロゴマークや事業担当課が入ることの効果を実感しています。

### **(5) 地域のニーズにあった親しみある公園づくりへ**

公園の明日を話し合うワークショップの開催を通して、ハコモノの公園から、地域住民のニーズにあった、親しみのある公園づくりへの課題や、協働・住民参加による公園維持管理活動の意義と課題が話し合われました。

(例) ワークショップでは、協働・住民参加による公園管理活動の良いところ、問題点や課題、公園の役割とあり方などが活発に話し合われています。第4回WSでは「協働・住民参加による公園管理活動の実施要綱（草案）」を提案し、本報告集に収録しました。この草案は、協働事業に関わる市民団体、事業者、区職員の皆さんからご意見をいただき、協働事業推進の一つの参考資料になればと考えています。

### **(6) 事業経費（税金）の節約**

提案制度に基づく本事業は単年度の取り組みですので、公園管理の事業経費がどのくらい節約できたのかの事業評価はできませんが、協働は事業経費の節約にも寄与すると思います。

## **3. 協働事業推進のための課題**

「協働」によるまちづくり、地域の課題解決への取り組みは、これからのまちづくりに欠かせない課題になっています。そして、江東区でも3年前から「協働事業提案制度」による取り組みが始まっています。これまでの取り組みを通して、江東区で協働事業を広めていくために必要と思われる基本的な課題を3点提案します。

### **(1) 協働事業推進の条例、実施要綱の制定、制度の確立**

まず、江東区で協働事業推進の条例、実施要綱の制定、制度の確立が必要です。

江東区の「基本構想」や「長期計画」には、これからのまちづくりや地域課題の解決に取り組む理念として「協働」が提唱され、「協働事業提案制度」も始まっています。しかし、区にはまだ協働事業推進の条例や実施要綱などの制度が整っていません。

当会が協働事業に取り組む際に区が提示した「契約書」や「協定書」のひな形は、事業委託や工事発注書の様式でした。協働事業と委託事業は、その理念も実施体制も本質的に異なるものです。また、「協働事業提案制度」の実施年度は単年度で、以降の継続した事業は想定されていません。これらは、江東区に協働事業に関わる条例や制度がないことから生じる問題だと思います。

条例や制度がなければ予算はつかず、予算がなければ事業は実施できません。協働事業の推進のためには、早急に条例、実施要綱を制定し、制度を確立することが必要です。

## **(2) 協働事業推進の仕組みづくり**

2つ目の課題は、協働事業を推進していくための仕組みづくりです。

江東区では一昨年来、協働を推進するための環境整備の一環として、市民活動団体間や行政とを仲介し、中立的な立場で各々の活動を支える「中間支援組織」の設置が検討されています。これはとても重要なテーマですが、協働事業における「中間支援組織」を考える場合、市民団体・事業者・行政間を仲介し、協議をする組織に加え、行政の中に協働事業を統括する主管課を設置することが必要です。

私たちが協働事業に取り組む中で改めて痛感していることは、「縦割り行政」の弊害です。協働事業を統括する窓口（主管課）を設置し、必要に応じて事業担当課と関係課の調整、市民団体との仲介を行うことによって、行政が一体になって取り組む体制ができると思います。また、協働事業を推進していくためには、行政側から区民、市民団体、事業者に積極的な呼びかけを行っていくことが大切です。

## **(3) 区の事業のあり方、運営手法、協働事業の対象を見直す**

3つ目は、江東区の事業のあり方と運営手法を見直し、「協働」による「新しい公共」事業を創りだしていくことが必要です。

本来、まちづくりや地域の課題解決の主体は地域社会を構成する住民です。「協働」の推進には、公共事業のあり方と行政の運営手法、行政と住民・事業者の関係性を見直し、変えていくことが必要になっています。

周知のように、区内には江東区の事業と連携した町会・自治会、市民団体、事業者の様々な分野での活動が存在しています。その活動は、当会が実施している公園管理などの環境保全活動にとどまらず、防災・防犯の活動、高齢者支援や子育て支援の活動、教育や福祉、社会環境の活動まで「江東区長期計画」に盛り込まれた34の施策すべてに及んでいます。それらの活動の多くは、それぞれの担当課に登録されていて、補助金や交付金が支給されています。中には区の委託事業として活動している団体もあります。旧来の補助金や交付金といった制度の見直しも含め、こうした町会・自治会、市民団体などの諸活動を「協働」の理念と制度の中に再評価し、協働事業の対象として汲み上げていくことが必要ではないかと思います。

江東区における協働事業は始まったばかりです。協働事業に関わる区民・事業者・行政の知恵と経験を積み重ね、協働によるまちづくり、地域の課題解決の取り組みを推進していきましょう。

#### 4. 江東区区民協働推進会議委員意見書

事業名	こうとうむかしばなし		
■団体名	東京都印刷工業組合江東支部		
■担当課名	広報広聴課	□関係課名	文化観光課、指導室 江東図書館
事業費 (予算額)	3,708,598円 (4,200,000円)	行政	2,000,000円
		団体	1,708,598円

<b>◆ 江東区区民協働推進会議 委員意見 ◆</b>	
<p>・事業者の組織が社会的課題に対して取り組まれたことはとてもよかったと思います。事業の目標が本をつくることだけでなく、親子のコミュニケーション促進や地域文化の継承などに向けられたことは協働の意義を高めたと言うことができ、今後制作された絵本でどのような展開をしていくのか、新たな活動に期待します。</p> <p>・今回のモデル事業を通して、行政のみならず複数の他団体とのネットワークも構築できた様子で、このことも今後の事業の推進に役立つことが推察できます。事業全体の組み立てについては、「親子の対話不足」という問題は、「地域課題」というよりは広く「社会的課題」であり、この社会的課題を地域に密着したテーマの絵本づくりを手立てに解決していく。そのために、先ず初年度は、第1段階として区内の幼稚園等で読み聞かせを広げること目標に掲げ、次年度以降の第2段階として家庭での読み聞かせによる「親子のコミュニケーションの促進」とした方が無理がなかったかもしれません。また、この事業は幼児期から地域の伝統・文化・歴史に対する関心を寄せるきっかけとして、教育的な観点からも意義ある事業だと思いました。</p> <p>・協働事業としては、絵本づくり、読み聞かせのそれぞれにおいて関係各課と一定の協働の効果があったものと考えます。そのうえで、2冊の絵本ができたことは評価できます。1年間の経験を生かし、親子のコミュニケーションの促進という目的の達成のための活動を展開してもらいたいと思いますが、今後は絵本の販売を中心に展開していく意向であることから、自主事業として多くの子どもたちが喜ぶ内容の絵本が作られることを期待します。</p> <p>・今後の展開としては、絵本販売は自主事業で行い、作成や作成後の読み聞かせなどの活動は協働もしくは支援で、という形が良いのではないかと考えます。販売に当たっては、個人が買いやすい値段を考慮してほしいと思います。</p>	

<b>◆ 江東区区民協働推進会議 総合意見 ◆</b>	
<p>子ども達の発達段階における読み聞かせは重要な役割を持っているにもかかわらず、今日的な社会課題として本の読み聞かせの機会が薄れてきています。こうした社会的課題に対して出版社等の事業者が単独で取り組むのではなく、「印刷」という専門性を有した事業者が団体として社会貢献として実践したことは、これからの企業のCSRとしての一手法として示唆したものと言えます。さらに、テーマを江東区という歴史と文化のある地域で昔から語り継がれてきた話を掘り起こし、「ことちゃんのみんなでわっしょい」「ゆめのしまのおうさま」の2冊を刊行したことは、協働事業として大きな意義があったと言えます。</p> <p>本事業の主な内容である読み聞かせを、区内の幼稚園等12施設(25回)において実施できたことは、行政の支援体制がなければできなかつたとも言えます。その意味では協働事業としての成果とも言えます。</p> <p>一方、今回の協働事業で目標としていた、一般家庭における親子によるコミュニケーションの促進は、十分な成果を得るまでには至りませんでした。絵本を各家庭に普及させていくためには、さらに江東区の昔話を掘り起こし発行書籍を増やすと同時に、印刷部数を増刷することにより浸透させる方法を考えていかなければならないと思います。そのためには図書館や幼稚園等親子で集える場所への配架促進はもとより、各家庭でも身近に置きながら親子の読み聞かせなど普及するため、安価で入手することが可能な販売体制を考えていくのも方法と考えられます。しかし、読み聞かせの普及にあたっては図書館、幼稚園、学校はもとより、地域の中で活動している関係機関・団体との連携が必要です。また、広報等の面で行政の支援もより進めていくことが求められていると考えます。加えて、読み聞かせのための人材育成や出版といった活動を展開するためには、これら活動の財源を安定化する努力が団体にも求められていると考えます。</p>	

<b>事業名</b>	公園を通じた地域コミュニティ形成活動事業 ～区民がつながり守り育てる公園づくり～		
<b>■団体名</b>	南砂線路公園の環境を守る会		
<b>■担当課名</b>	施設保全課	<b>□関係課名</b>	温暖化対策課、環境保全課 清掃リサイクル課

<b>事業費 (予算額)</b>	1,520,065円 (1,540,000円)	<b>行政</b>	1,380,000円
		<b>団体</b>	140,065円

<b>◆ 江東区区民協働推進会議 委員意見 ◆</b>	
<p>・公園の整備や緑化イベントを市民主体で行ったことは、とりわけ男性の社会参加という点と同様の活動が区内に広がる可能性が高いということから、素晴らしい取り組みであると思います。</p> <p>・「みんなでつくる公園」という目標に近づくことができたのか？本来行政が行うべき公園管理を地域住民の自主的な活動で代替できたのか？この成果は今後の団体の活動によって明らかにされ行くものと思われます。このような事業を通じて、広く一般区民の公園づくりの意識啓発に結び付けていくこと、より安全で清潔、心地よい空間としての公園づくりを目指していくことが期待されます。本提案事業を通じて行政と区民の信頼感が強まったことは、協働における大きな成果と言えます。</p> <p>・事業の達成に向けて、企画運営委員会のほか随時協議を重ねながらの進行管理が、今回の目的達成の大きな要因になっていたと感じました。</p> <p>・当会の場合、一定程度行政との連携実績がある上での取り組み事例のため、事業実施上の諸課題において、相互理解・共有化がより円滑に進んだと思われま。その結果従来以上に連携を強化できたこと、新たな部署との関係が生まれたことによる広がりや生まれたことなど、協働による効果があったと評価できます。また、予算がついたことにより可能になったワークショップやイベントの開催も、例えばそれぞれが独自に行うよりも効果を上げたのではないのでしょうか。今後この事例を活かして他の地域へどのように広げていくかという課題は、団体よりもむしろ行政側の姿勢・方針に関わる面が大きいと思います。</p> <p>・今後は南砂線路公園発の取組みが区内地域全体に広がることを期待します。公園づくりから色々な人を巻き込むことが、地域住民にとっても良いことだと思います。</p>	

<b>◆ 江東区区民協働推進会議 総合意見 ◆</b>	
<p>J R 貨物線越中島線の引き込み線跡地を区が「南砂線路公園」として整備し、その運営を、住民参加による活動として設立された「南砂線路公園の環境を守る会」が協働事業として行うことになりました。そもそも団体の目的が明確であることが、協働事業の実施団体としてはこれまでの協働事業としては異なるものでした。それだけに単に公園を管理するのではなく、住民にとって身近な、親しみのある、多様な企画が、多様な住民の主体的参加によって運営されていくことに審査過程の中でも期待したところです。</p> <p>今回の協働事業の実施報告にありますように、住民の誰でもが参加しやすいプログラムを企画するためにワークショップ等を丹念に繰り返し、多様な企画を実施できたことは、一部の人達の取組みではなく、みんなの公園づくりというモデルとしての目的を達したとも言えるのではないのでしょうか。植栽や花壇づくりなど管理運営に加え、子ども達に草花の名前や特徴などを教える学習の場として小中学校等と連携したり、ボランティアやNPO等とイベントを企画し実践するなど、他団体へのPRの場としても積極的に活用していくことをより一層考えておくことも必要です。</p> <p>一方、行政側も将来の方向として「協働事業として行うほうがよい」として概ね前向きな評価をしていますが、住民の主体性を大切にしながら、行政の役割をさらに積極的に考えても良いものと思われま。とりわけ担当部署だけではなく、多様な部署を含めた庁内調整を含めた連携が求められます。</p> <p>いずれにしても、今後は協働事業は単年度で終わらせるものではなく、継続していくための仕組みや予算化など行政側の制度的改善も考えなくてはならないと同時に、マンネリ化しないための団体側の人材育成が大きな課題でもあります。</p>	